

---

# IS ~ ISを動かせるもう一人の男は一夏の兄で転生者

怒レイン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

IS\ISを動かせるもう一人の男は一夏の兄で転生者

### 【Nコード】

N6398Y

### 【作者名】

怒レイン

### 【あらすじ】

突然白い光に飲まれ気づいたらISの世界へ。

## プロローグ

「よかったですね！元気な男の子です」

何故だ？俺は知らない女に抱かれている？確か俺は、家に帰ったあと、いきなり視界が白くなって、視界が元に戻ったら赤ちゃんになっていた……

「あゝぶぶあゝ（なんでだゝ！？）」

転生してはや五年……

生まれたあと、すぐに一夏が生まれた一夏は同い年だが一ヶ月後だ。ちゝねえは十四歳だった気がする。それと両親だが……いつの間にか居なくなってた（ちゝねえ曰く蒸発したそうだ）。その後は、隣の篠ノ之家に養子として入った。

一夏「蓮兄ゝ束姉さんが呼んでたよゝ」

蓮夜「分かったよ一夏。いま行く」

ちなみに今の俺の名は篠ノ之蓮夜だ。名前は産みの親が付けた名前だ。

一夏「うん。俺は箒と遊んでるね」

蓮夜「ああ。」

篠ノ之束と箒。束姉は姉で箒は妹だ。それと、言っちゃなんだが、束姉と箒の両親は俺や千冬姉や一夏や箒が束姉に近づく事を嫌っている。

まあ、その性で束姉も両親を嫌っている。

蓮夜「来たよ、束姉」

束「遅いよ、れつくん」

この人が自称・大天才（大天災）で千冬姉の親友の篠ノ之束だ。箒や千冬姉や俺に一夏以外には凄く冷たく興味が無い人は覚え無い。

蓮「それで俺を呼んだ理由は何ですか？」

束「束さんがれつくんエネルギーを補給する為だあ」

ぎゅう〜と俺に抱き着く束姉

千冬「おい、束！いつまで蓮夜に抱き着いているつもりだ！！」

束「いいじゃん！束さんはれつくんエネルギー不足なんだ「ガシツ！」痛あああいいいいい！！ちゅちゃん！！それ以上やると天才の束さんの頭が潰れるうううう！！！」

蓮夜「うわ〜」

現在、束姉に千冬姉がアイアンクローを決めている。頭だけ掴んで宙に浮かすって……すごっ！！……って止めなきゃ！！

蓮夜「千冬姉！！それ以上やると束姉の頭が真っ赤なザクロになる

よ！！」

千冬「ふむ、そうだな」

束「へぶっ！？」

何とか千冬姉を止められたけど、アイアンクローを止めた後、束姉は宙に居たから顔面から落ちた。……しかも痙攣起こしてる。

蓮夜「大丈夫だよね！？加減したよね！？」

千冬「安心しろ。死なない程度に加減してある」

束「……（ピクピクッ）」

と、そんな退屈な日常が束姉や千冬姉や篝や一夏が居てとても楽しかった……。だが、束姉達の両親が交通事故で死亡した時、俺と束姉以外は泣いたが俺はこの時束姉はどんな顔をしているのか見たとき、束姉が嬉しい事をしようと考えている顔を見た。この時、束姉を止めていたら女尊男卑の世界が出来る事なんて無かったと思う……。が、束姉からしたら宇宙服として使ってくれと思って発表したのだと思う。

そして時間は進み、十年後の世界へ進む。

## 一話

篠ノ之夫妻の事故からはや十年・・・今は中学三年生になった。そして今日は、藍越学園の試験日なのだが・・・

蓮夜「本当にこっちで合ってるのか一夏？」

一夏「大丈夫だって！蓮夜兄」

だといいがな・・・嫌な予感がヒシヒシと来やがる。こうゆう時の嫌な予感は大抵当たるからな

一夏「此処だと思う」

蓮夜「・・・随分と適当に言ってくれるな」

そして入った部屋にはISが置いてあった。

ガシャーン

蓮夜「おい。明らかに閉じ込められたぞ？」

一夏「千冬姉になんて弁明しよう」

蓮夜「とりあえず、藍越学園の試験には間に合わ無いな・・・」

何か・・・束姉に仕組まれた感があるんだけど。と、考え込んでいる内に一夏がISに触れた瞬間

ヴィイイイインソン！！

一夏「マジでか！？」

一夏がISを起動した。

蓮夜「一夏、女だったのか！？」

一夏「いや、それは無い」

蓮夜「だろうな」

そついいながら、もう一個のISに触る。すると・・・

ヴィイイイインソン！！

蓮夜「やっぱりか・・・」

一夏「何か分かったのか蓮兄？」

蓮夜「ああ」

だいたい予想は、今の世の中、女尊男卑だからな。束姉的に身内が罵られるのが嫌なんだろ

「試験はこちらです！早く来てください！」

一夏「え？あつ、え？」

先生に言われ、結局試験を受ける事になった。一夏の試験官はなん

か自滅してたけど・・・

蓮夜「よろしくお願いします」

試験官「はい」

ピーーーーー（試験開始の合図）

とりあえず突撃・・・しようとしたら突撃して来たから迎撃するか・  
・

蓮夜「ハアツ!!」

突撃を仕掛けて来た試験官の懐に入り

蓮夜「フツ!!」

ドカヤアアアアアン!!!

殴り飛ばした。試験終了後、千冬姉にお前は試験官を潰すきか!!  
と怒られた・・・

後日……

ニュースで日本で二人の男がISを動かしたとやっていた。

蓮夜「何時になったらこの話題、終わるんだ?」

一夏「俺に聞くなよ蓮兄」

蓮夜「そうだな・チェックメイト」

一夏「ゲッ……負けました」

今はテレビを見ながらチェスをやっていた

千冬「二人とも制服が出来たぞ」

蓮夜「サンキュー千冬姉」

一夏「え！？ちょっと待って！！俺は、IS学園に行かないぞ」

千冬「ならモルモットになるのか一夏？」

一夏「行かせて貰います」

蓮夜「そうそう、人間素直が一番」

一夏「蓮兄は知っていたのか!？」

蓮夜「知っていたも何も、モルモットか学園かの二択しか無いじゃん」

身の為にIS学園に行く事になりました

## 一話（後書き）

主人公プロフィール

### 『名前』

・篠ノ之蓮夜

### 『性別』

・男

### 『年齢・身長・体重』

・15歳・178?・67?

### 『容姿』

・髪は黒く肩まである。目も黒い。

### 『性格』

・基本的に千冬に似ているが面倒臭下がり。兄弟思いでもある。

### 『好きな物・嫌いな物（人）』

・東、千冬、箒、一夏

・特に無し

一夏の誘拐は未然に防がれたので、千冬は二連続大会・優勝者である。が、今は張り合いが無く、IS学園の教師をしている

## 一話

うわゝ凄い居心地が悪い。周りは女子ばっか・・・

一夏「弾が天国って言ってたけどそうでもないな蓮兄」

蓮夜「そうだな。せめて、あの五人が一緒ならな」

一夏「だな」

はつきり言って動物園のパンダだな。楯無や虚や簪が居ればいいのに違うクラスや学年だから無理か。せめてもの救いは本音と箒が居る事だな。

蓮夜「あつ、チャイムが鳴ったから席に着け一夏」

一夏「分かったよ蓮兄」

副担の山田先生が自己紹介を始めたが一夏の奴、山田先生が何回か呼んで居るのに、ぼあくとしている。(ちなみに蓮夜は一夏の後ろの席です)

蓮夜「一夏！一夏！」

一夏「へ？蓮兄？」

蓮夜「お前の自己紹介の番」

一夏「あ、すいません。篠ノ之一夏です」

周りの生徒達が他にはぐ的な目で見てるな

一夏「　　以上！」

ガタツ！

ものの見事にずっこけたな。

一夏「えっ？駄目でした？」

パコオオオン！！x2

千冬・蓮夜「お前はまともに自己紹介すら出来ん（無い）のか？」

」

一夏「…第六天魔王……織田信な「パコオオオン！！」がつ！？」

千冬「誰が第六天魔王だ。それに私は女だ」

ごもつとも

千冬「すまない、山田君、クラスのことを任せてしまって」

麻耶「いえいえ、それも私の役目ですから」

何か顔が赤いが…レズか？と思ったら千冬姉に睨まれた

千冬「諸君、私が篠ノ之千冬だ。

私の仕事は

貴様らを優能なIS操縦者に育てることだ。いいか！

私の言っている事が理解出来なくても頭に入れる！いいな！」

「キヤーーーーー」

千冬姉が喋り終えた後に、教室の女子生徒が叫んだが……うるさい

「本物の千冬様よ！」

「私、昔からファンでした！」

「私は、北九州から来ました！」

スゲエ〜な。千冬姉は。人気、高っ！

千冬「はあ、毎年、毎年私のクラスにはばかばかり集めているのか？」

「キヤー、お姉さまもつと罵って〜」

千冬「うるさい黙れ、自己紹介の続きをしろ。」

一夏「けど千冬姉え〜」

スパコオオオオン

千冬「学校では篠ノ之先生だ。とりあえず次の奴自己紹介しろ」

蓮夜「はい。え〜と、篠ノ之蓮夜です。えっと、この学校で男子は二人だけですが普通に喋りかけてください。一年間よろしくお願

します」

自己紹介も無事に終わり、授業になった

キーンコーン、カーンコーン

授業が終わり休み時間

とりあえず、近くにいた本音と喋っている。(一夏は篇と)

布のほとけほんね本音俺が日本の代表になった時に、代表候補生の付き人としていた人。簪は候補生だったが他の候補生と違い、譲ってくれた。その後は、ロシア代表の更識楯無の所に行き仲良くなった。

本音「聞ってるの〜れんくん〜」

のほほんオーラ全開だな相変わらず

蓮夜「生徒会だろ？パス」

本音「ぶう〜、つまんないよ〜」

蓮夜「それより席に着け。チャイムが鳴るぞ」

本音にそう言ったら、廊下の奴らも急いで帰っていった

三話（前書き）

セシリアとの試合です

### 三話

キーンコーン、カーンコーン

一夏「授業終わった〜」

蓮夜「授業の内容を理解しているか一夏？」

一夏「分かんねえ」

蓮夜「帰ったら勉強な」

一夏「ゲツ……マジで？」

蓮夜「M A J I D E」

一夏と喋っていると

?「ちよつとよろしくて？」

一夏「誰だ？」

?「まあ！何ですの!」「一夏………気持ち悪くなったから保健室に案内してくれ」なっ!?!? 貴方ね!」

アイコンタクトで同じ意見に達した。こつゆう女は無視である

一夏「分かった」

次の授業：保健室から帰ってきたら、クラス代表を決める所だった  
蓮夜「すいません。遅れました」

一夏「付き添いで遅れました」

千冬「分かった。体調が悪くなったら私に言え」

と千冬姉に遅刻した理由を話、許しを貰った

千冬「自薦他薦でいいから早くクラス代表を決めろ」

千冬姉が言ったとき、嫌な予感がバシバシ来た。そしてこうゆう時は、大抵その予感は当たる

「蓮夜君がいいと思います」

「私も」

「私は一夏君がいいと思います」

「私も」

やっぱり当たった

蓮夜「俺はパ「降りる事は認めん」……」

退路が断たれた瞬間だった

？「納得行きませんか！クラス代表とは最も実力があるもの。こん

なド素人に任せておけませんわ！」

千冬「となると、蓮夜が一番相応しいとゆうことになるな。」

？「そんな訳ありませんわ！このセシリア・オルコットが一番相応しいに決まっています。」

蓮夜「奢るなよ、ただか代表候補が俺に勝てると思っているのか？」

セシリア「何ですって!？」

千冬「ふむ、ならば蓮夜、オルコットと決闘しろ」

ちなみに、篠ノ之が三人居るので名前で呼ばれています

千冬「勝った方がクラス代表で何でも一つ命令出来るでいいか？」

セシリア「いいですわ！私が勝ったら奴隷にして差し上げます」

蓮夜「俺が勝ったら、俺と一夏に関わるな」

千冬「ならば、決まりだ。決闘は三日後だ」

と千冬姉が言ったあと、他の女子は固まっていた。

一夏「で、勝てるのか蓮兄？」

蓮夜「愚問だな。一瞬で終わらせてやるよ」

簪「…相変わらず…だね…」

蓮夜「簪が譲ってくれて代表になったんだから、一瞬で終わらせ無  
いと簪に悪いからな」

簪「…そんなこと…無い…。でも奴隷になったら…姉さんに…会  
えない。…一夏にも…会えない…」

一夏「どうした？簪？」

鈍いな一夏は…ん？今、お前が言えた義理じゃ無いだろって聞こえ  
た。

蓮夜「まあいいや。」

一夏「どうしたの蓮兄？」

蓮夜「何でもねえよ」

一夏「????？」

その日、授業が全て終わって放課後

千冬「一夏は1035室で、蓮夜は1036室だ」

同じ部屋だといらぬ騒ぎが起きるから、違う部屋にして貰った。

一夏「隣の部屋だな蓮兄」

蓮夜「そうだな。一夏」

荷物は千冬姉が最低限持ってきてであると言っていた。

千冬「とりあえず部屋に行って、荷物の整理をしろ」

蓮夜「分かった」

一夏「へい」

しばらくして、寮の部屋に着いた

蓮夜「また後でな一夏」

一夏「分かった蓮兄」

一夏にそういい、部屋のドアを開けた

ガチャ

?「待ってたわよ」

ボタン

気の性か?今、居ないはずの幻覚が見えた気がした。隣を見ると一夏も部屋の前で考えていた

蓮夜「一夏?どうした?」

一夏「疲れているのかな？簪の幻覚が見えた気がした」

簪が隣の部屋なら間違いない。あれは本物だ

蓮夜「それは幻覚じゃ無いぞ一夏。本物だ」

だから、俺の部屋に居る奴も本物だ

ガチャ

？「いきなり閉めるなんて酷いじゃない」

蓮夜「何をしている楯無」

楯無「何をしているってこれから相部屋になる仲じゃない」

蓮夜「俺がお前となら、一夏は簪と同じ部屋相部屋なんだろう？」

楯無「そうよ」

そうか。

蓮夜「一夏と飯食いに行ってくる」

ガチャ…バタン

寮の部屋から出たら一夏が居た

蓮夜「行くぞ一夏」

一夏「うん」

その後、一夏と飯を食って部屋に戻ったのだが……

蓮夜「ズボンを履け！て、言うかなんでワイシャツ一枚なんだよ。終いには襲うぞ」

楯無「あら、望む所よ!？」

どきっ

楯無が言い切る前にベットに押し倒した

蓮夜「……………」

楯無「……………//////」

そして、蓮夜は徐々に唇を楯無の唇に近づけていく。そして、あと5?とゆづ所で楯無は目を閉じる。そして…

パコオオオン!!

楯無「痛っあああああ!!!」

デコぴんをした。

蓮夜「バーカ。付き合っても居ないのに襲うかよ」

楯無「ううううう!!」

その後もいろいろあったが全部、楯無がからかわれただけだった。

そして三日が過ぎ

蓮夜「行ってくるな。一夏、簪、箒」

今日はセシリアとクラス代表を争う日

一夏「おう。」

箒「勝てるのか？」

蓮夜「先手必勝で終わりだ。」

千冬「早く行け蓮夜」

蓮夜「はい、行くぞ黒龍花。篠ノ之蓮夜、出る」

ビュウウウウウ

セシリア「よく逃げませんでしたね」

蓮夜「何故俺が逃げなきゃ行けない？」

セシリア「まあ、いいですね。最後にチャンスをおげます。泣いて詫びるなら許してあげましょう」

蓮夜「いいから始めようぜ」

千冬『これより一年一組のクラス代表を決める試合をする。………  
試合開始！』

セシリア「さあ、踊りなさい！私の「おせえよ！」なっ！？」

蓮夜「零落龍花れいらくりゅうかつ！！はああああ！！」

バリーーーーン！！ドスツ！！

そっぴい、千冬の零落白夜と似た技を放ちセシリアのブルーティ  
アーズのシールドを一刀の元にぶった切り、聖拳を当て気絶させた

ヒュウウウウウ…ドカーーン！！

そしてセシリアとブルーティアーズは地面に堕ちた。

千冬『試合終了！勝者・篠ノ之蓮夜！！』

千冬が試合終了といい、クラス代表争奪戦は終了した。ちなみに、  
試合は一分絶たないで終わった

## 三話（後書き）

主人公のIS

『名前』

・黒龍花

束特製で龍をモチーフにしたIS。装甲は紅椿と同じ。黒龍花はコア人格があり、会話が可能。

『技』

・零落龍花

本編で説明したように零落白夜と似た技で黒龍花の単一仕様能力ワンオフアビリティである。

『武器』

・龍裂（剣）

武器は剣一本だけ。

それと説明して無いですが、セシリアとの試合で蓮夜はイクニッション・ブースト瞬時加速を使っています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6398y/>

---

IS ~ ISを動かせるもう一人の男は一夏の兄で転生者

2011年11月20日19時31分発行